之、之等の階級的組合の殆ど全部が、指導精神と従来の傳統にとらはれて、共同闘争をだに遂行し難き實情にあること併せ考へるとき、この陣容の擴大強化の緊急事たることを痛感せざるを得ない。

特に最近資本家的産業合理化の遂行と之に伴ふ無産階級の窮乏化により、全労働大衆の戦闘化が促進せられつゝあるとき、かゝる大衆を組織し訓練すべき日常闘争の主動部隊のかゝる無力化は稍もすれば全労働大衆の支持と信望を失ひ、更に之を政治闘争に動員するには益々困難を墓露するものである。しかも現下の情勢は労働組合に對してかゝる使命を要求して居る。かくて全労働大衆を闘争へと動員する大衆的組織の確立、階級的統一戦線の結成、政治闘争への積極的進出、現下の情勢に適する指導精神の確立、之等は我國労働組合當面の問題となつてゐる。一切の實践も理論もこの任務の下に統一されてのみ階級的意義を見出す。

二、極左翼及び右翼の運動に對する批判

我國の労働組合運動に於ける極左翼及び右翼の對立に最近の新なる特徴と見らるべきものである。由來労働組合運動に於ける左右兩翼の對立は欧洲大戦後の先進社會運動國に於て現出したる世界的傾向であつた。

これらの先進社會運動國は、欧洲戦前に於て既に労働組合運動の過渡期を經過し、その組織は壓倒的多數を占め、國内戦線統一の第一期を完成し、かくて相對的安定に對抗して一大政治闘争に躍進すべき段階に到達してゐた。かくて國際労働組合運動の戦線を横斷するアムステルダムとモスコーの兩インターナショナルの政治闘争の方針に從ひ、先進社會運動國の内部に於ける政黨の分裂と相伴つて労働組合運動内部に於ける左右兩翼の分離對立は不可避的に促進せられたのである。だが、最近に至つて戦後第三期の矛盾は激化して來て、これが必然的に國内戦線の統一を促しつゝある。

我國の労働組合運動にあつては、極左翼と右翼との對立は、之等の先進社會運動國に於ける對立とその性質を著しく異にするものがある。即ち、

一、我國の労働組合運動が漸く分散狀態から統一運動に入らんとするとき、同時に政黨樹立の運動を展開したので、労働組合が政黨的職分を脱脚せんとし、その過程に於て極左翼と右翼との對立は惹起された。從つてこの對立は過渡期の對立に過ぎない。

二、しかも、この統一戦線の過渡期に於て擡頭せる極左翼陣容に於ける福本主義は、労働組合のかゝる過渡期の傾向を誤認して却つて労働組合に百パーセントの政黨的職分を強制したので、その結果極左翼と右翼との對立は全線に亘り擴大した。

三、だが、之等の誤れる指導が行はれないにも拘はらず、組合運動の統一戦線は労働組合自體が漸く大衆的基礎を擴大すると共に、大衆の壓力により急速に生長しつゝある。特に今後世界資本主義の矛盾の激化は世界的に大衆の統一戦線への壓力を増大せしめるが、我國の組合戦線の統一は之と並行して促進せられるであらう。

我等は現下の極左翼及び右翼の對立を斯くの如く評價すると同時に、斯る對立は何等の實践的効果のないことを當面の緊要なる闘争題目について實證することが出來る。

一、大衆的組織の確立は現下の緊要題目である。だが、此の點に就いて、極左翼は自己の不自然なる所謂左翼的立場を大衆に強要した結果、急速に大衆から遊離し、少數の思想的グループと化し去つた。また左翼は極左翼との對立上、徒らに右翼意識を強調して大衆の自然生長性を抑壓した結果數次の分裂を重ねた。

二、階級的統一戦線の結成

極左翼は曾ては統一同盟なる「左翼外郭の結成により、左翼指導下の統一戦線を夢想した。しかしかゝる觀念的左翼指導精神を基礎とする統一戦線の失敗は其後の事實の物語る所である。之に對して右翼には所謂右翼聯盟の組織があるが、之とても今後我國の労働組合運動が産業別組合戦線に沿ふて統一を促進せられつゝあるために、組合運動の上に於ける實践的効果は何等認められない。

三、政治闘争への積極的進出

我國に於ける労働階級の政治的進出に、全無産大衆の政治的進出と共同戦線結成の氣運に即して行はれた。この進出の過程に於て、從來政黨的職分を担有し來つた労働組合がその主動的地位に立つたことは當然であるが、この過程は同時に労働組合の政黨的職分からの脱脚の過程としての歴史的意義を持つた。然るにかゝる分化過程に於て、極左翼の組合は労働組合の經濟闘争に於ける職分を否認し、全面的經濟闘争の名の下に一切の經濟的部分闘争を無視して闘争の大衆的基礎を喪失し、なかつた。かくて極左翼の政治的進出は一時目覺しきものがあつたが、その大衆的基礎なる労働組合の崩壊と共に、その政治闘争は徒らに觀念的發展を遂げるに過ぎなかつた。また左翼の政治的進出は見るに、大衆の政治闘争への生長を阻止し、労働組合に對しては單に政黨的職分からの脱脚を強要して、労働階級の當面する經濟闘争たる政治闘争への場合を無視してゐる。その進出に指導闘争への参加働者の参加、大衆政黨に對する形式的支持の限度を出つない。

四、指導精神の確立

從來極左翼と右翼の對立の代表的なるものは指導精神の一致つただが彼等の指導精神は、現下の日本資本主義の諸情勢の正確なる認識と我國労働組合運動の嚴正な分析批判の上に立つことなくして、徒らに對立意識を確認するとその時結果する形式的なるに過ぎなかつた。かゝる指導精神の形式的確立は、外面的に神等の統一を示す如くあるも、實に大衆の生長性を無視し、從つてそこには斷きざる大衆の遊離と分裂が線の表面化するこゝたる。我等は指導精神の確立を過少評價するものではないが、現下の諸情勢に於ては、一面大衆の生長性に即且つ一切の分裂的傾向の排除を主眼とする階級的大衆的基礎に於ける指導精神の確立のみが、かゝる形式的確立を克服するものたるを信ずる。

六、全國労働組合同盟の地位と使命
――『合同』の意義及び現段階に即する大衆的闘争組織に就いて

一、我等の『合同』の意義

世界資本主義の戦後第三期に於ける新しき矛盾の擴大激化と之に伴ふ我國労働大衆の高揚とは、全への進出の傾向に即し、更に我國労働組合運動の飛躍的發展の前に、我等の全國労働組合同盟は成された。我等の同盟體はかゝる運動の諸情勢が要求する歴史的使命を遂行するために必要なる力の集中をその根底とするものである。この『合同』の一つ階級的意義は、國労働組合同盟の発の發展の基準をなすものである。

由來我國における労働組合戦線統一の運動は資本の攻勢の高揚なる増大と共に、屢々實践的課題重ねたが何れも何等の効果を收めずして終つた。之が原因は主觀的には指導精神の一致に因りて分狀態が合理化されたこと、及び、積極的には大衆の急速なる生長に伴ふ當然の發達の時期が倒壓的たり得ないことに求められるが、更に技術的には単なるかけ聲に提唱にて即實的効果に結る見透しのないことによる。從來、指導精神の對立の激化の只中に於て屢々合同提唱されたるとき、また、現存する各労働組合の傳統と組織には何等の鞏固なる拠はなくて、各合同が提唱されたる如き、單なる形式的提携以上に出でない合同協議が言はれたる如き、或は、或は、同盟同體、地方的組合及び産業別合同の混然として合する労働組合會議の直接に合同運動の主體たり得が如き謬想に提はれたる如き、何れもこの類であつた。

我等は今後に展開されるべき労働組合戦線の統一の基準は、名實相伴ふ全國的産業別組合の確立之を基礎とする強力なる全國的同盟體の結成に置かなければならない。だが現下の我が労働組合運は尚強力なる全國的産業別組合の確立を見ないので、地方的組合乃至は全國的同盟體の媒介を必要する。然るに一面我が國労働組合運動はかゝる労働組合戦線の統一の傾向と同時に政治戦線に進出べき便宜を課せられ、且つ資本の攻勢の激化に伴ひ巨大なる未組織大衆の闘争への進出を控へてゐ關係上、中央集權的なる地方的組合乃至は全國的同盟體はそれ自體に於て重要なる闘争の使命を負に至つてゐる。現下の狀勢に於てはこれらの有効なる闘争なくしては、大衆獲得と從つてその産業編成は不可能の狀態にある。

かゝる情勢は、從來の合同運動の技術的缺陥の批判と共に、我等に、全國的同盟及び地方的組合可能なる合同による闘争力の擴大強化によりて同盟自體の大衆獲得と之が産業別編成への影響りを大